

鼻骨骨切り幅寄せ術とは

鼻骨骨切り幅寄せ術とは、太い鼻筋を細くすっきりと整える手術です。鼻の内部から骨を切り、中心に寄せてから固定することでノーズラインをシャープに整えます。鼻の内側から行う手術のため、傷跡は小さくほとんど目立ちません。太い鼻筋はどっしりと力強く男性的な印象を与えるため、骨切り幅寄せを行うことで華奢な女性らしい印象をつくることができます。

鼻骨骨切り幅寄せ術の持続性

鼻骨骨切り幅寄せ術は半永久的に効果が持続する整形です。鼻の組織を直接メスで切開し、骨を整えていく手術のため、術後に元に戻ってしまうことはありません。

鼻骨骨切り幅寄せ術後の状態・ケアについて

・当日と翌日は長時間の入浴はなるべく避け、ぬるま湯での軽いシャワー程度にしてください。術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、熱いお風呂を避けていただくことをおすすめします。

- ・1週間後に来院していただき、抜糸を行います。
- ・術後は経過を見ながら、1～2週間はギプスやテーピングで手術部位を固定します。
- ・ギプスでの固定期間中は患部がなるべく濡れないようにしてください。洗顔の際は手術部位以外を濡れタオルで拭く、洗髪時はシャンプーハットを使うなど、ギプスを濡らさないよう上手に扱ってください。ギプスやテーピングが取れてからは鼻周辺も優しく洗っていただいて大丈夫です。術後1ヶ月程度はゴシゴシ擦らないよう注意して触ってください。
- ・メイクはギプスを外してから可能ですが、最初のうちは鼻周辺に触れる際はなるべく優しく、できる限り負担をかけないようにしてください。
- ・1週間～1ヶ月は1日2～3回程度、鼻筋に沿って両手の中指をあて、鼻骨が広がらないよう微調整を行ってください。
- ・強い腫れは、2週間程度で引いていきます。その後も時間の経過と共に腫れは引いていき、完全に腫れが引いて完成するまでには厳密には数ヶ月～半年ほどかかります。
- ・内出血については、個人差がありますが数週間前後で消失します。
- ・術後は、しばらくの間鼻に強い力が加わらないようにしてください。とくに術後1週間程は手術部位や傷口周辺が不安定な時期のため、なるべく鼻に負担がかからないよう十分に注意して生活してください。具体的には、うつ伏せで寝る、鼻を押す、ぶつける、鼻をかむ、鼻先や傷口周辺を触るといった行為はできるだけ行わないよう充分ご注意ください。
- ・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。
- ・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は当面の間お控えください。

※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。

※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

鼻骨骨切り幅寄せ術で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

鼻の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね2週間ほどで腫れは引いていきます。

【血腫】

術後に皮膚の中で内出血が生じると傷の中に血が溜まり、鼻先、鼻柱、鼻の中の粘膜がこぶのように膨れることがあります。時間経過により回復していきます。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性があります。

【しびれ】

手術により非常に細かく小さい神経を切ることがあり、術後痺れが残る可能性があります。多くの場合は3～4ヶ月で回復します。

【左右差】

手術直後より左右差が出る場合があります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の鼻の形、筋肉の動き、普段の生活上の癖などが原因で、完全な左右対称にはならない場合があります。

【後戻り】

術後、回復に伴い多少後戻りします。多くの場合、2週間～1ヶ月ほどかけて徐々に後戻りしていきます。

鼻骨骨切り幅寄せ術をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、鼻に怪我や炎症がある方、局所麻酔剤にアレルギーをお持ちの方は手術を受けられません。

©2024 医療法人社団 桜恵会